

伯林より申上候

榮社伯林特派員

中西賢三

▼日本郵船の船が乗せて歸る日本人よりも、同船に乗せて來る獨逸人の日本人の数が、遙に多いと見えて、並木街を散策する日本人の率が月毎に増して來ました。

▼日本料理店「藤巻」で、牛肉の鍋をつつく日本醫學生の氣焔も、日増しに盛大になつて來ました。

▼今日の新聞では、エーストライヒが破産の宣告をするのだそうであり、個人に破産があれば、國家にも破産があるのだらうが、何しろ前代未聞の事で相當面白い問題でありませう。

▼オーストラリアが破産すれば、聯合國が伊太利が其の財團管理をするでせう。そうならば、今までの様に一磅に三十三萬馬克なんて安い金で生活する事が出來ないから、オーストラリアにゐる研究者はドンドン獨逸へ還入つて來るでせう、そうなりや、又獨逸繁昌の事です。

▼獨逸の書籍は驚く程安い(尤も外國値段にすれば九善あたりより少し安い位であるけれども)文部省より留學した連中なごは金があまつて仕方がないので、よく本屋へ出かけて行きます。

▼伯林で醫學書籍専門店が一番大きい店は、

Oscar Rothacker
Berlin N24, Friedrichstr 105B.

であります。此處に大使館へ行けば

日本人が大抵五六人乃至十人位いつでも見えます。

▼店のものは日本人に見れば誰彼の區別なく、ドクタードクターと御世辭がよく、眼科に關するもの、耳鼻科に關するもの、齒科に關するもの、専門を言つてやれば直に數十冊の本を見せて呉れます。此方から何々の本なご云はなくともチャア、ンと取り揃へてビンからキリまで見せて呉れます。

▼話が變りますが、西伯林のシャア、ロッテンブルグ、ウィルマースドロフ、シエーネベルヒ、此の三區に日本人の多くが住居して居ります。六百萬の日本人の中、此の三區にゐるものが五百人もありませう、だから此の三區の住民は日本人を見て、珍しがりませぬが、其他の區ではまだ日本人を珍しそうに見られます。

▼此三區の子供は〇〇は日本人を大歡迎してゐるらしい。日本の叔父さんは氣前がいゝから「ヤバーナ、〇〇」裸足の小供がつき纏ひます。「何時ですか」と訊くから「何時だ」と答へてやる。「金をお呉れ」と直ぐ來ます。「金はないよ」と云ふ。「日本人は金持だ」と云ひます。「金がないれば郵便切手をお呉れ」と云ひます。〇〇の連中は辻なごで「ア、ナタ、アナタ」と日本語で驚かし、甚しいのになど片言ながら不自由のない程日本語の達者がゐるそうです。

▼先般の伯林十日醫會で、九大教授三宅連博士の〇〇話があつたが、矢張り足の裏の機つたい連中がないでもなかつたらしいです。話を聞けば成石部堅吉留學生が極度の神經衰弱でとうとう狂人になつて日本へ歸つたそうでありました。

▼三宅連博士の様に御年を召されてゐない、若い血のある留學生が度々過ぎない遊びは返つて研究の目的に添ひ、醫學の練習となり、一面には獨逸貧困婦人の慈善事業ともなる、なんの體のいゝ辯解をするのは誰でせう。勿論御國の妻君には「〇〇なごは〇〇不申候」と書いてサ……

▼名前は一寸云へませぬが、〇〇氏内地で精勤勉勵の點から獨逸へ在外研究員として派遣を命ぜられたらしい。〇〇遊びに三十歳の何さか面白すぎて書棚は蜘蛛の巣が張る様になりました。

▼留學期間が切れても、先生〇〇の縁を切りたくなかつたのです。「〇〇〇〇は俺に夢中だから」なんて云つてゐる方が夢中でせう。同窓や先輩が親切の忠告も馬の耳に念佛。

▼ヤットの事で「それぢや一度歸朝して再び來よう」と〇〇と甘い熱い接吻を交はしました。停車場を汽車は煙り丈けを残して走り去りました。〇〇は勿論手切金を抱いて泣きました。忠告をした友人も何だか氣の毒なごいじらしかつたそうです。

人ブラウトを紹介して下さい「居並んだ友人達は口を大きく開けたまゝで下宿へ歸つたそうです。

▼カフェーで有名な「税關」ミ稱する〇〇のゐる、マルターを初め、日本人の爲めにミカド、ゲイシャ、カ、ゾーなごあるそうです。マルターの「第二税關」なんかいふ〇〇は、現今日本で有名な人達を相手に取つた云ふ五十近いおばあさんであります。今では第五税關まで出來てゐます。

▼これも、これも獨逸日の三ヶ國はやりませう。尤も日本語は「色男金」はなかりけれ」なんて云ふ事まで知つてゐますが、大した事もないそうです。

▼兎角話はどうした方に向き易いもの、しかし伯林に在る醫學留學生は勿論熱心に勉強をして居ります。只だ數多い中に一二のものがつまらぬ噂の種になる事はさうも仕方のない事です。要するに、醫學留學生は、當地で爲すべき多數のアルバイトの爲めに、一般が精勵である事を保證いたします。

▼伯林の夏は極く淺き易く御座います。いつも裏付の羅紗服で汗なごの殆んど出る事はありませぬ。そして麥酒は安くコーヒよりも安價に、大きなビフテキが十六錢位であります。

▼之から寒くなりますれば燃料缺乏の獨逸に、何か一つ起りさうに思はれます。

▼段々冬に向いて行きます。此の頃にはもう七時半に薄暗くなります。夏は九時半まで明かるかつたが、段々

日が短く成る。

▼從て夜が長く成つて燈下親しむべしといふ様な感じに成ります。これからは本當の勉強をする秋でせう。

▼最後に讀者諸君及び編輯局同人の健康を祈ります。

(九月八日伯林發)

醫事新報詩壇

鎮西游草 (完結)

萬水 辻澤 玄

別府温泉

南海。瀨波。鏡。面。開。靈。泉。湧。處。樓。臺。浴。餘。呼。酒。又。凭。檻。恰。好。前。灣。月。來。

其二

溶。溶。新。水。回。環。隔。海。依。稀。翠。巒。處。處。樓。臺。歌。吹。湧。高。秋。露。氣。月。明。開。

歸京書感

曉。輪。昨。向。帝。都。還。鴻。爪。難。忘。千。里。間。瓊。浦。煙。波。鶴。城。月。夢。魂。猶。繞。鎮。西。山。

讀辻澤萬水詞宗鎮西游草

五江 小川 正路

調。似。乾。嘉。脫。纖。巧。格。迫。正。始。見。清。新。琳。琅。一。卷。西。游。稿。賴。子。於。今。有。替。人。

槐園 青木 信

夜間落葉

策々吟邊凄有餘。孤窓倦客夢驚初。三更不是何來雨。知比雨聲聽漸疎。

贈人

籬落疎々一徑荒。重陽節近菊花黃。想君吟筆加樸大。屋足容身還不妨。